

1

## 陽光受け輝く姿

農道の脇に黄色い花が咲いていました。青空の下で風に揺れています。スマホを取り出し花の正面から狙ってみます。スマホは広角レンズなので、主役を強調するように近づいて撮影しま

した。さて、次に花の裏側に回ってみます。下から見上げると太陽の光で花が光っているように見えました。ローアングルはダイナミックな印象になります。気に入った花を見つけたら正面だけでなくいろいろなアングルから観察してみましょう。意外な美しさを見つけれられるかもしれません。

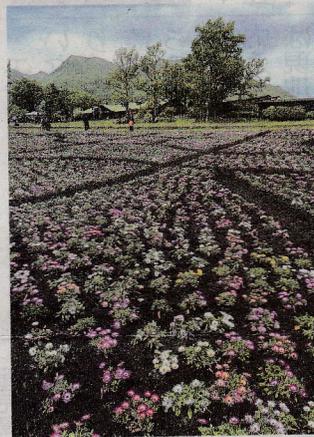
2

## 青空と雲も意識

「5月は一年でも一番きれいな時期ですよ」と聞き、大分県竹田市のくじゅう花公園にやってきました。標高が高いため、関東では時期が過ぎたポピーやネモフィラなども咲いていました。リビングストーンデージーがなだらかな丘一帯に広がっていました。立ったまま撮影すると花畑の茶色い土が目立ってしまいます。スマホを地面に着くぐらい低く構えると気にならなくなりました。青空が広く写るので、雲の形も意識して撮影しました。



スマホを地面に近づけて下から撮影



立ったまま撮影したために土の部分が目立ってしまった

3

## 絞り優先オート

一眼カメラやコンデジなどで花をアップで撮る場合は「絞り優先オート」をおすすめします。絞りを開放にすると背景がぼけてきれいな花が強調されます。カメラの適正露出だけではなく、明るさを変えて撮影してみましょう。特に白い花はオートでは暗めに写ります。露出補正で1段以上明るくしてみましょう。さらにオーバー気味に撮影

するとパステル画のような効果も期待できます。



白い花を露出オーバーで撮影すると絵画のように

4

## 重宝する膝当て

花は横から撮影すると花や茎のやわらかな曲線が表現できます。ただ、実際に低い姿勢で撮影するのはなかなか大変です。腹ばいになったり膝をついたりすれば構図をしっかりと見ることができます。屋外での花の撮影にはレジャーシートや園芸用の膝当てなどがあると便利です。スマホのレンズを上下



きれいな花々を背景にするため腹ばいになり撮影

逆に構えると、よりローアングルで撮影しやすくなります。